

来年4月、本村が町へ

県内町村部で人口第五位

本村が昭和五十四年四月一日を目標に町制移行する計画を整えた。本土復帰後、本村の人口は、急激に増え、現在では、県内四十三町村中五位の人口規模であり、内容的にも町の風格を有するにいたったと云える。

本村では、予ねてから町制移行の問題を検討し、その準備をしていたが、このほど村議会全体協議会及び村事務担当者の席上で村当局の方針を説明し、昭和五十四年四月一日を目標に町制移行の計画を整えている。

この町制移行は、村から町へ町から市への将来像に基いて行なわれるもので、町としての要件を定める県条例にもあてはまり、県内七町三十六村中人口規模も第五位にランクされ、内容的にも町の風格を有することから、その計画を進めている。

本村は那覇市の東方約十二キロメートルの地点に位置し、総面積一五・四〇平方キロメートルを有し、三市一町二村に隣接し、南は中城湾に面した中南部のほぼ中央に立地し、地理的に恵まれている。

歴史的には主権時代から純農村として発展し、昭和三十五年に第一次産業従事者が五七・六％を占めていた。しかし、本土復帰を境に国立琉球大学の移転が千原、上原地域に決まり、又昭和四十九年那覇広域都市圏に編入されるや、地域開発、人口急増等の都市化現象が急激に進行した。現在では、第一次産業従事者が二・〇％、第二次、第三次産業従事者八八・

〇％と就業構造も大きく変化した。昭和五十二年九月末の本村の人口は、一万五千二百七十二人で県条例の定める町の要件八千人以上を充分満たしている。ちなみに県内町村部で人口一位豊見城村（三万〇、二七五人）昭和五十二年十月一日現在、二位読谷村（二万六、六〇五人）、三位南風原村（一万八、二二七人）、四位本部町（一万六、一六四人）で次で本村は第五位である。昭和五十二年三月末全国住民登録人口概況では、全国二、六一一町村中五七四位であり、全国レベルでも上位グループに位置していると云える。

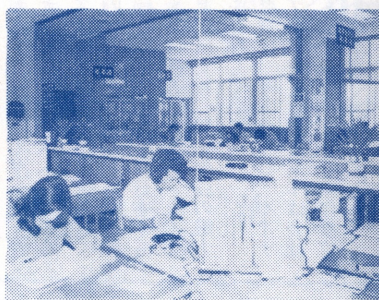
村の世帯・人口 (昭和53年10月末日現在)	
世帯数	3,634世帯
人口	15,324人
男	7,806人
女	7,518人
10月の人口移動	
出生	32人
死亡	3人
転入	103人
転出	80人
婚姻	8件
離婚	1件

企画課、産業課等が二階へ

このほど村役場二階の一部が、企画課、産業課、農業委員会及び商工会の事務室として模様替えされ、十月十三日、同職員全員が一階からの移動を終え、窓口などすべての業務を開始した。

これは、村職員が増えて、村役場一階の事務室及び窓口等のスペースが狭くなったための処置で、そのことにより住民サービスが一層改善されたものと期待される。

また、企画室だったところは助役室になり、一階窓口のスペースも拡張され、改善された。



役場二階の企画課、産業課、農業委員会、商工会の事務室

農業近代化が始動

共同利用で省力化と経営拡大

公害防止に糞尿処理施設を設置

十月十四日午後三時から字兼久四〇三番地で養豚用地の起工式が行なわれ来年三月完成に向けて建設工事に着工した。養豚業の団地化は、経営の規模拡大と省力化がねらいである。また公害防止のために糞尿処理施設を設置し、公害のない産業を目ざし、地域へ貢献するものと期待される。

養豚農家十人で結成されている農業組合法人・南国養豚組合（城間正保組合長）主催で、十一月十四日午後三時から海岸寄りの字兼久四〇三番地で養豚団地の起工式が、組合員のほか村役場、村議会、村農協の関係者と工事請負業者など約七十人が参加し、行なわれた。

総事業費一億四千二百六万円を投じて来年三月二十日に竣工する予定である。敷地一万三、一七六平方メートルには肥育豚舎、分娩豚舎、堆肥舎、隔離豚舎、事務所など合わせて三、一七七平方メートルの建物が建設される。そのほか、貯水池（六四八平方メートル）

(養豚団地)

化し堆肥に使用する。分離された尿は浄化槽に送り込まれ、酸酵させたのち、キビ、野菜などの肥料



養豚団地起工式で鍬入れを行なう
村長、組合長、工事責任者

に活用される。
総事業費一億四千二百六万円のうち国・県補助が九千四百七十七万六千円、村補助金が一千八百八万円、受益者負担が三千六百二十六万六千円である。

完成すれば繁殖豚、種豚、肉用豚、子豚の計画生産、一貫経営ができ、当面、年間生産頭数三千頭を目標にしている。飼育頭数は常時一千八百頭であるが軌道に乗る次第、肥育頭数を三千二百頭に、生産頭数を六千頭に増す計画である。当面は、村全体の生産頭数の約四割を団地で占めると言われ、将来養豚団地の比重は大きくなるものと関係者から注目されている。

組合員は、共同利用によって経営の省力化が図られるものと団地化に意欲的だ。

尚、組合員は次の各氏。
城間正保（兼久一〇一）、新垣正一（兼久一二三）、与那覇正（兼久八九）、山川三郎（兼久一四七）、新里朝男（兼久一〇〇）、城間敏夫（我謝二四二）、小波津三郎（小波津四一）、安座間喜永（森川六〇）、呉屋秀信（与那城一一二）、新田宗善（与那城三一五一）

はじめに

私達市町村長一行はブラジル移住七〇周年を記念して建設された在伯沖縄県人会館の落成式典という行事に参加する機会に南米の移住地を訪ねて、移住者のこれまでの苦労をねぎらうことを目的に去つた十月十一日地球の裏側にあたる南米に向けて沖縄を出発しました。

今度沖縄から市町村長が大団南米を訪ねるのは戦前戦後を通じて初めてのことで、南米ペルーを皮切りにボリビア、アルゼンチン、ブラジルの4ヶ国とハワイを僅か十八日間の限られた日程で広大な移住地をつぶさに見て回ることができなかったのではありませんが、いくらか移住地の事情を理解できたことは意義深いものがあつた。

沖縄は日本一の移民県としてブラジルを中心に南米大陸に定住の地を求めて活躍しております。本村出身者も南米各地に(二世・三世を含む)多く、私達は熱狂的な歓迎をうけ息つく間もなく頭の整理が不十分のまま各国の移住地の実情など、感じた事柄について帰朝の報告といたします。

ペルー

成田空港からブラジル航空でロスアンゼルス・マイアミ経由約二〇時間の飛行時間を要し、初めの訪問地ペルー国リマに着いた。

県人会、村人会、そして新せき、知人に迎えられ、空港は沖縄ムードの一片につつまれた。滞在二日目は県人会の案内で日系企業視察し、幹部の方々からいろいろと県人の活動状況を教えて貰った。

三・三倍、人口一、四〇〇万人人種構成は原住民五〇%、混血三九%、ヨーロッパ系一二%でスペイン語である。

日系移民が初めてペルーに移住したのは明治三二年、それから七年遅れて沖縄から移民を送り出したのは明治三九年のこと。丁度来年度は日系移民が渡秘して八十周年目に当たるという。

今日で財産は没収され、移住者は苦難の道を歩みながら、ゼロの状態から再出発して、いまや安定した生活基盤を築いているという。

オイルショック、ドルショック以来のペルーは史上最高の不況に見舞われ、これをいかにして克服するかが当面の問題であるが経済回復は依然として進まないという。

移住者もリマ市を中心に商業が多く、多様な商業を営んでいる。将来の展望に明るい期待を寄せ

南米訪問を終えて



る反面、二世、三世の各界への進出も目ざましいものがある。

ボリビア

ボリビア国は、日本の四・三倍の面積を有し、南米大陸では第五位を占める大きさで、人口四七〇万人という。

沖縄から昭和二九年八月、当時琉球政府計画移民として第一次移住者二七〇名がうるま移住地に入植し、来年二五周年を迎え、その記念事業としてサンタクルス市にコロニア沖縄総合センターの建設が進められ、これが完成によって移住地で生産される農作物の流通が促進されるという。

私達は、サンタクルス市から第一、第二、第三オキナワ・コロニアの移民の活動状況を見ることができた。

主として、牧畜や綿、大豆、サトウキビ等を栽培し、機械化を導入して農業を営んでいる。

サンタクルス市から第一移住地間は立派な幹線道路が舗装されているが他の移住地までの重要道路は満足に舗装されておらずこれらと並行して文化の恩恵に浴してない移住地の幾多の問題は緊急を要するものと痛感した。

ボリビア移民は過去に風土病、水害等悲惨な目にあい、希望を失い、隣国のブラジルやアルゼンチンに親せき、知人を頼って転住者が続出したと聞かされたがようやく生活の基盤を築き、将来の展望に明るい期待を寄せ

白人社会で人口二、五〇〇万人でヨーロッパ系が九七%を占めているという。

日系人は約三万人住んでおりそのうち七割の二万一千人が沖縄県出身者であるといわれている。在沖縄県人会や村人会などが組織されて邦人社会が組織的な活動がなされている。

ブエノス・アイレス市とその近郊に集中し、日系人の大半がクリーニングと花き園芸業を営んでいる。

滞在中は村人の方々の暖かい歓迎を受け、特に村人会の幹部の方々の案内で翁長出身の仲宗根ウサさんの野菜作りを見ることができた。

仲宗根さんは戦前ペルーに渡った排日暴動で築き上げた財産の総べてを失い裸一貫でアルゼンチンに渡り、当時は日雇いの労働で苦勞し無から再出発したと

宮平 吉太郎

語る。州政府から十二町歩の土地の払下げをうけ、近代農業を営み、七種類の野菜作りを行っている今日では一日の出荷量はトラックの二台、少なくとも週四、五台は四〇キロの地点にある中央市場まで運び、卸で販売しているという。他に同出身の仲宗根一郎さんも大規模な農業を営んでいることを聞いたが距離的に遠い関係と本人が沖縄に一時帰郷したこともあって仲宗根ウサさんを選んだ。引き続き宜野湾出身の山内昌憲さん宅を訪ね花き栽培について見聞した。さらに、村人の武道場最後に掛保久出身の玉城盛喜さんの印刷業を見せたいだきました。

アルゼンチンは軍事政府下であり、政権の交替が激しいところ、移住者は生活基盤が確立し現在では一世、二世の医者、弁護士、建築士等各分野に進出し

社会的地位の向上に貢献している。

ブラジル

私達は、ブエノス・アイレスを出発、目的地のサンパウロに着いた。

空港は、県人会、村人会親せき、知人が詰めかけ肩を抱き合つて相互の再会を喜んだ。

ブラジルは、日本領土の二・三倍豊富な資源に恵まれた二世紀の国であるといわれている。人口一億一千万人、そのうち日系人は七五万人といわれ県人がその一〇%の七万五千人を占めている。

サンパウロ市は商業都市で経済の一大中心地であり、大部分の移民はサンパウロ市とその周辺に住み、市内の東洋人街と呼

議室において移民連絡会議が関係者多数出席して開かれ、現地側からとくに戸籍整備の問題が提起され、長時間話し合われた。移民の中には戸籍がなく困っている、なんとか戸籍を早く整備してほしいとの声、戦争のため戸籍が滅失していれば国の責任において再製すべきである。

戦後は終つたというが、我々は戸籍が整備されない限り戦争は終つてないとして強調する。

移住地もサンパウロ市を中心に商業や縫製業を営み、生活も安定し、子弟教育にも力を入れ二世、三世の社会的進出も目ざましいものがある。

ハワイ

最後の訪問地ハワイ滞在一泊三日の予定でありましたが、正味一日しかなく、村人の多いハワイ在住者と接する時間的余裕がなかったのは残念であつた。

私達一行は、ハワイ着の飛行機が予定より遅れ、ホノルル空港から県人会が手配してくれたバスで県人会主催の歓迎会場に直行し、遅くまで県人の盛大な歓迎をうけた。

ホノルルはハワイ州の首都として政治、文化、教育の中心として発展し、ハワイ経済は観光業がトップで次いでサトウ、バナナアップルからの収入で支えられているという。

同地を訪れる観光客は昨年三二〇万人といひ、うち日本から観光客は四五万を占め、とくに若者が目立ち、観光の島の魅力さを発揮している。

農業は、サトウキビ、パイナップルが主で経営主体は会社であり、個人経営は野菜作り位だとのこと。日系移民の社会的進出は目ざましいものがある。

西原小で講演会 開かれる

沖教組西原連合会(榎原正栄執行委員長)では、十月二十五日午後五時から七時まで西原小学校体育館で豊中市立第二中学校の石原忠一先生をまねき「子どもの発達について」のテーマで講演会を開いた。講演会に参加したのは、村内の先生方をはじめ村内三小中学校のPTAで約二百名であつた。

また、その日、同じ場所午前二時から五時まで小学校五年生の理科の公開授業と先生方の研究会も行なわれた。

新会員紹介

(昭和53年5月~10月)

事業所名	事業所所在地
西原クリン社	小波津六四七
総合西北学院	小那覇二六六の一
榎拓南建設工業	我謝八三一
与那城工業	小波津五六七
ミカド	兼久一〇〇
浦がくぶち店	与那城 三一八の三
日本生命那覇支社	小那覇二六六
社与那原支店	榎原一〇九
レストラン・シンデラー	徳佐田一
又吉オートサービ	翁長四七六
坂田レコード店	翁長六四四
日琉建築工業	幸地一〇〇八
国場看板	兼久一〇〇
西平そうざい店	幸地七八九
線香製作所	幸地一〇〇
まさるスーパー	幸地一一一
那覇電業社	幸地一六七
仲宗根建築設計事務所	小橋川 一六四一
上里金物店	我謝二四一
我喜屋金物店	小那覇四六九
拓南商事	

昭和五十四年度 保育所入所児童募集について

昭和五十四年度（四月一日）保
育所入所希望児については、入所
申請を受付けますので希望者は左
記により申込み下さい。

●入所申請期間
昭和五十四年二月一日から二月
二十日まで村役場福祉課で用紙交
付受付を行います。

●入所できる対象児童
昭和五十四年四月一日時点で満
一才以上小学校就学前までの児
童。

●保育所を利用される方へ
保育所は保護者がお子さんの面
倒を見られなくなったとき、入所
できるものであつてどの家庭のお
子さんも無条件で入所することは
できません。ですから、学校教育
を目的とする幼稚園とはその機能
がちがっています。すべてのお子
さんは、その家庭ですこやかに育
てられるのが理想ですが、保護者
が労働に従事したり病気にかけ
たり、その他の事情でお子さんの
面倒を見られないとき、家庭にか
わつてお子さんの面倒をみるもの
です。

●保育所へ入所できる基準
①母親がいつも外へ働きに出てい
るとき
②母親が家庭内でいつも子供とは
なれて働いているとき（自営業
の場合）
③母親のない家庭
④母親が産後、病気、心身障害者
で子供の保育ができない場合
⑤母親がいつも病人、心身障害者
の看護にあたっているとき
⑥家庭の災害によるとき
前文の場合でも、その家庭に母
親以外の人が児童の保育可能な
場合は入所できません。

●申込みに必要な書類
①保育所入所申請書
②住民票謄本
③前年度の税額証明書
④注意事項
次の場合、保育所入所決定中又
は、入所中であっても、退所の原
因となりますので、そのようなこ
とがないよう特に注意して下さい。
①入所申請及び面接調査の際に虚
偽の申告があるとき②疾病、そ
の他の理由により他の保育児童
悪影響及ぼすおそれがあるとき
③その他、保育の継続を不当と認
めたとき
その他、詳しいことは村福祉課
窓口でお尋ね下さい。

●保育所の定員
公立
保育所名 定員
西原保育所 36 18
坂田保育所 54 42
私立
西原白百合 30 30
保育園 60 60
愛和保育園 90 90

昭和五十四年度
成人式のお知らせ
日時…一月十四日午後二時
場所…西原小学校体育館
受付…午後一時～二時
資格…昭和三十一年一月十五日
生れから昭和三十四年一
月十四日生れまで
その他詳しいことは村教育委
員会にお尋ね下さい。

昭和五十四年度 西原村立幼稚園児募集

- 一、入園資格
西原村内に居住する満五歳児（自 昭和四十八年）
四月二日～至四十九年四月一日生）で保護者と同
居する者。
- 二、募集日時
昭和五十四年十二月二十日（水）及び二十一日（木）
午後二時～四時
小学校の校区と同じ。
- 三、通園区域
児童同伴、印鑑持参のうえ各区域の幼稚園で申し込
むこと。
- 四、入園手続
各幼稚園に該当名簿が準備されておりますので、希
望者は当日直接出向いてください。

西原村教育委員会
五一四七二九

中国雑感

南翔人民公社を訪問して

喜屋武 哲治



私は、九州青年の船で九月七
日午前十一時に那覇港を出発し
十四日間の中国旅行に向いまし
た。訪問地は、北京（二日間）
天津（二日間）、上海（三日間）
でありました。

十日早朝、天津港に到着。十
日、天津から汽車で北京に入り
北京動物園、天安門広場、故宮
（清王朝の皇居）を参観。十
一日、万里の長城（八達嶺）、
明の十三陵の定陵（万暦帝の陵
墓）を参観。十二日、天津市の
人民解放軍陸軍一九六師団を訪
問し、工場、農場、射撃訓練、
芸能などを見物。十三日、天津
市の第一ジュタン工場を参観
後、天津市歌舞団の中国文芸を
見物。

十三日午後十時半天津港を出
港し、十六日午前四時頃上海港
に到着しました。

十六日、上海第九化学繊維工
場、上海工業展覽会、西部公園
魯迅先生の墓を参観及び参拝。
十七日、南翔人民公社を見学後
夜、中国雑技（曲芸）を見物。
十六日、虹口区大連新村、上海
博物館、虹口区少年宮、上海青
年宮を参観。

十八日午後十時上海港を出港
し、二十日午前十一時那覇港に
到着しました。まさに「馬を走
らせて、花を見るような」旅で
ありましたが、その中で一番感
銘を受けた南翔人民公社につい
て報告致します。

人民公社を訪問したのは、十
七日の午後二時から五時までで
あった。

人民公社とは、中国の最末端
の行政機構と経済組織を一本化
した中国独特の組織である。日
本流に言えば村役場と村農協の
機能を兼ね備えたようなもので
ある。

人民公社の組織は、公社、生
産大隊、生産隊の三層構造であ
る。

南翔人民公社では、生産隊は
平均四八戸から形成されてあり
約九つの生産隊で生産大隊を形
成する。同社は、生産大隊十八
生産隊一六四、世帯数七、八〇
〇戸、人口二万八千人程度のど
かな純農村であった。

二、一八一ヘクタールの耕地
は、水利灌漑施設が整備され、
農道、農地の区画も整理されて
いた。二期作目の稲が四十七セ
ンチほど伸び、見わたす限り、
緑をたたえていた。一方では、
綿花が花をいっぱい咲かせ、収
穫期を迎えていた。生産農作物
の主なものは、米、じゃがいも
大豆、小麦、コウリユアン等の
穀物類と綿花である。そのほか
ニワトリ、豚、牛の畜産も盛ん
だった。

生産面でも、一九五八年の設
立当初の一・五倍に伸びたとい
う。それも、食糧の問題を解決
するため、中国では八字憲法と
呼ばれる土（土壤改良）、肥（
施肥の増加）、水（水利建設）、
種（品種改良）、密（合理的密
植）、保（作物の保護）、工（
農具改革）、管（栽培管理）が
徹底して行なわれたからである
特に同社を訪れてびっくりした

のは、農作物を保護するために
農薬のほかに微生物（テンカン
菌）を使用しているというこ
とだった。肥料は、堆肥が主で
化学肥料は中央から平等に分配
される程度といわれる。畜産廃
棄物は、すべて農地に還元され
悪臭公害も皆無といっている。
「食糧を要として全面的に発
展する」という国家方針に従っ
て県指導部から生産計画の指示
が出され、公社の革命委員会の
メンバーが調整して生産目標を
決め、各生産隊が生産向上に努
め、目標を達成していくのであ
る。革命委員会とは、行政機関
にあたる組織である。人民大衆
の推薦と県指導部の指名とで計
二十三人の委員が選ばれる。委
員の必要条件として「誠心誠意
人民のために奉仕する」という
ことが要求されている。そこに
中国の人々の労働に対する使命
感がうかがわれた。

案内した公社の責任者は、頭
が低く、少しも尊大な態度が見
られなかった。それは、中国全
般に云えることだが、天津市の
ジュタン工場の責任者、上海
市の化学繊維工場の責任者にも
見られることだった。懇切丁寧
な説明と応答ぶりに感心させら
れた。中国人は特に会話を好む
国民であるように思えた。とい
うのは、どこを訪ねても、接
客の中心は会話である。参観前
にあいさつと概要の説明、参観
後に質疑応答と懇談がある。テ
ーブルの上にはふた付の茶わん
に花茶（ジャスミンティー）が
注がれる。これが最高のもてな
しである。沖縄での接客でお茶
を出すのもルーツをなぞれば中

国に落ち着くのではないだろう
か……

人民公社に働く人達の住居は
概して瓦葺き平屋で、ほとんどの
部屋が土間で居間、寝室、台
所、納屋等があり質素なもので
ある。

ところで、人民公社では、農
場以外にも、大型農業機械工場
鉄工場、病院施設、学校（小学
十二校、中学二校）などを所有
しており、自立した経済圏を形
成していた。

まさに、工・農・商・学・兵
の機能を総合的に営んでいるの
である。同時に食べる、着る、
住む、病気の治療および葬式を
すべての人々に保証すると言っ
た、全耕作地の五割は自留地
として各農家に平等に分配され
野菜を植えたり、ニワトリを飼
ったりして自由に使用でき、自
家消費用に当てられる。でも自
留地だけで完全な自給自足はで
きないようである。

南翔人民公社を訪問して、私
達郷土の農業及び産業のあり方
について深く考えさせられた。
同時に中国の行政機構及び社会
組織のしくみを実感として体験
でき、百聞一見にしかず得る
のは大きかった。それと、中国
人の労働に対する使命感を肌で
感じる事ができたことも貴重な
体験であった。中国で学んだ
貴重な体験を今後本村で生かし
ていきたいと思ふ。

最後に、九州青年の船で中国
を訪問した時にお世話になった
事務局及び関係者、九州各県の
友達の方々と中国でお世話にな
った通訳、訪問地の責任者、関
係者の方々に深く感謝申し上げ
ますと共に、日中友好が永遠に
続き、発展することを心から願
います。



第三回 村民運動会 終る

村民の融和と健康増進がねらい

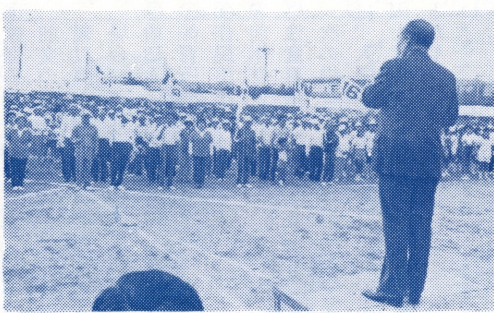
十一月十二日午前九時から西原中学校グラウンドで村民の融和と健康増進を図る目的で村役場主催の第三回村民運動会が盛大に開かれた。

通子子供から老人までの村民総出の運動会となった。あいさつに立った主催者代表の宮平村長は「この運動会を通して区民間の交流と融和を図り、合せて、村民の健康増進に役立てたい」と述べた。

出し物も、午前の部でみんなが楽しい体操（全員）老人クラブのゲートボール競争、幼児のかけっこ、スポーツ少年団の千メートルリレー、老人クラブの「今日ちばらなしかぬちゃー」、「三村おどり」西原小六年生のなますぬぐ、エイサー、小学生の各区対抗リレー、婦人会の「さとうきび音頭」、「五町村音頭」、つなひき（全員）、みんな楽しく踊ろう（全員）と続いた。

午前十二時から午後一時まで屋食に移り、各テントでは家族そろって弁当をひろげ、なごやかなムードであった。

▶開会式であいさつを述べる村長



▶坂田小学校鼓笛隊



▶7区（内間）婦人会のインディアンの仮装

第14回 村 駅 伝 大 会 区 間 成 績

区 間	順 位	氏 名	チ ャ ム	記 録
1 区 (4.2km)	1 位	新 川 善 紀	O B	14分50秒
	2 位	新 垣 進 彦	7 区 A	16' 01"
	3 位	新 垣 和 彦	7 区 C	16' 10"
2 区 (6.45km)	1 位	大 城 豊 正	7 区 A	22' 55"
	2 位	大 城 邦 雅	11 区	25' 16"
	3 位	平 良 恒 信	O B	25' 18"
3 区 (5.7km)	1 位	城 間 良 雅	7 区 O B	22' 50"
	2 位	新 川 俊 勝	11 区	23' 34"
	3 位	新 垣 安 茂	7 区 A	23' 52"
4 区 (4.4km)	1 位	見 里 安 茂	7 区 A	16' 23"
	2 位	新 大 嶺 修 浩	7 区 C	17' 31"
	3 位	大 大 城 正 浩	7 区 C	18' 46"
5 区 (5.75km)	1 位	大 大 平 保 一	7 区 A	22' 04"
	2 位	大 大 良 儀	7 区 A	22' 31"
	3 位	平 与 伊 善 弘	7 区 O B	22' 47"
6 区 (6.2km)	1 位	伊 城 善 弘	7 区 A	23' 43"
	2 位	伊 城 善 弘	11 区	25' 48"
	3 位	伊 城 善 弘	6 区	26' 05"

七 区 A が 優 勝

第十四回 村 駅 伝 大 会

村体育協会（平安恒政会長）では、秋深まる十一月二十六日午前十一時半から青年の交流とスポーツ振興を目的として、各区対抗の第十四回村駅伝大会を開いた。

午前十二時ちょうどに村役場前をハチチームの選手が一斉にスタートし、知念村安座間の知念海洋レジャーセンター折返し（計三・二キロメートル）の六区間で健脚が競われた。絶好のコンディションに恵まれ七区Aチームが二時間五分二五秒の好記録で優勝を飾った。昨年の駅伝コースは、村役場からコザ高校前折返し（三〇・二キロメートル）だったが、ちなみに昨年の優勝記録は一時五九分四七秒である。

七区Aは、七区の字内間の青年会で編成されたチームで各区間で一位三名、二位二名、三位一名を出し二区から完全な独走態勢に入り、二位との差をぐんぐんひろげていった。結局、ゴールでは、二位との差を二キロメートル以上離しテープを切った。

各 チ ャ ム の 成 績		
順 位	チ ャ ム	記 録
1 位	7 区 A	2 時間05分 25秒
2 位	11 区	2 位 13' 09"
3 位	7 区 C	2 位 18' 34"
4 位	7 区 O B	2 位 21' 26"
5 位	6 区	2 位 26' 05"
6 位	10 区	2 位 32' 54"
7 位	7 区 B	2 位 36' 00"

「なますぬぐ」、「豊年音頭」、中学生の各区対抗リレー、婦人会の仮装行列、各区対抗混成リレー、整理体操（全員）と続き、午後三時半に全日程を終えた。また、西原中学校のバンド部にも活躍してもらい、大会は盛り上った。

とりわけ、その日は村老人クラブの会員の方々が若い者顔まけのハッスルぶりで、あざやかな手並の踊りは見事であった。また、婦人会の趣向を凝らした仮装行列は好評を博した。特に、七区（内間）婦人会のインディアンの仮装はユニークであり、観衆の笑顔は絶えなかった。なごやかな雰囲気の中に運動会も終わり、この運動会を「村民から歓迎されるもの」に定着させたいと村長はじめ主催者もその意を強くしている。

保育所の園児、村職員を訪問

勤 労 感 謝 の 日

十一月二十三日の勤労感謝の日。その日、村役場では、村長、助役、収入役はじめ全職員が園児達を丁寧にもてなした。



▶園児から花束をもらいニコニコ顔の助役

運 転 は、飲 む な、飲 ま す な、無 理 す る な

昭和五十三年
固定資産税（第三期分）
納付について
納期限：十二月二十五日（月）
尚、一・二期分未納の方も早目に納めていただきますようお願いいたします。